

松山市における「インクルージョンの推進」について
～「松山市こども計画」のめざす姿を、すべてのこどもたちの日常へ～

1. 私たちが掲げる大切な「約束」

- ・ こどもたち一人ひとりが主人公 (めざす姿)
- ・ 誰もが自分らしく輝くまつやま (めざす姿)
- ・ 誰一人取り残さない重層的な支援 (基本方針)

2. 現場から届く「壁」の声（事例）

理念と現実の間にある、いくつかの「境界線」です。

- ・ [入園・入学の壁] 相談段階での「やんわりとしたお断り」
- ・ [付き添いの壁] 行事参加への「保護者同伴」という高いハードル
- ・ [居場所の壁] 特性ゆえの行動が「わがまま」と誤解され、自信を失う子
- ・ [つながりの壁] 専門性の不安による心理的な距離、園から学校への情報のバトンタッチの難しさ

3. 本日の問いかけ：皆様にとっての「本当のハードル」は？

障がいのある子を「別枠」ではなく、「少し手厚い支援が必要な、一人のこども」として一般の施策の中で受け止めようとした時、皆様の現場で見える壁を教えてください。

- ・ 体制面： 人手不足、安全確保の難しさ、物理的な環境
- ・ 知識面： 具体的な接し方への不安、成功事例の不足
- ・ 周囲の理解： 他の保護者や地域の方々との合意形成の難しさ
- ・ 心理面： 「専門家でないと対応できない」という身構え

「唯一の正解」を求めているわけではありません。皆様が日々感じている率直なお考えやご意見こそが、インクルージョンを進めるための貴重な一歩になると信じています。

令和8年2月9日

こどもの相談室 ふらっと
安藤 有紀